

TREND IN ALLERGY

アレルギーをめぐるトレンド

UMEGAKI, Noriko

梅垣知子

慶應義塾大学医学部皮膚科助教

JAK 阻害薬と円形脱毛症

Alopecia areata : a new treatment approach by JAK inhibitors

近年の研究により、円形脱毛症の病態に、細胞傷害性T細胞の活性化とJAK-STATシグナル伝達経路が関与していることが明らかになってきた。本稿では、経口および外用JAK阻害薬を用いた円形脱毛症の治療の展望について述べる。

はじめに

円形脱毛症は、おもに頭髮に円形の境界明瞭な脱毛斑を生じる。自然治癒することも多いが、難治性になることもある。治療はステロイドの外用や局所免疫療法、紫外線療法のほか、重症例ではステロイドパルスやステロイド内服などが行われるが、「日本皮膚科学会円形脱毛症診療ガイドライン2017年版」では、推奨度A(行うよう強く勧める)に位置づけられる治療法がないのが現状である。しかし近年、円形脱毛症の病態のメカニズムに関する研究が進むにつれて、より病態に沿った治療のターゲットが明らかになってきている。今回、円形脱毛症の病態の最近の知見と、分子標的薬であるJAK (Janus kinase) 阻害薬による治療の展望について述べる。

円形脱毛症の病態

円形脱毛症は毛包に対する自己免疫疾患で、病理学的所見として、毛包周囲にリンパ球を主体とした炎症細胞浸潤と毛球部の破壊を伴う。成長期毛包は免疫寛容の環境にあり、MHC(major histocompatibility complex)クラスIの発現がほとんどなく、細胞障害性T細胞の免疫反応から保護されている。しかし、円形脱毛症ではこの免疫寛容